

小屋組、軒先廻り

7月12日より、大屋根（小屋組 こやぐみ）の工事が始まりました。

地元鹿児島県内の大工さんを含め、総勢13名の宮大工さんが作業します。

架け渡された梁の上に、小屋束（こやづか）を貫（ぬき）を入れながら、建てていきます。



小屋束の上に母屋（もや）や棟木（むなぎ）を乗せていきます。



段々、大屋根の姿が見えてきました。屋根の四隅に隅木（すみぎ）を取り付け、軒先の材料を取り付ける準備を行います。



軒先に檼木（たるき）と茅負（かやおい）を取り付け、桔木（はねぎ）で固定していきます。



更に軒先には、裏甲（うらごう）を取付け、桔木（はねぎ）に母屋（もや）を取り付けていきます。

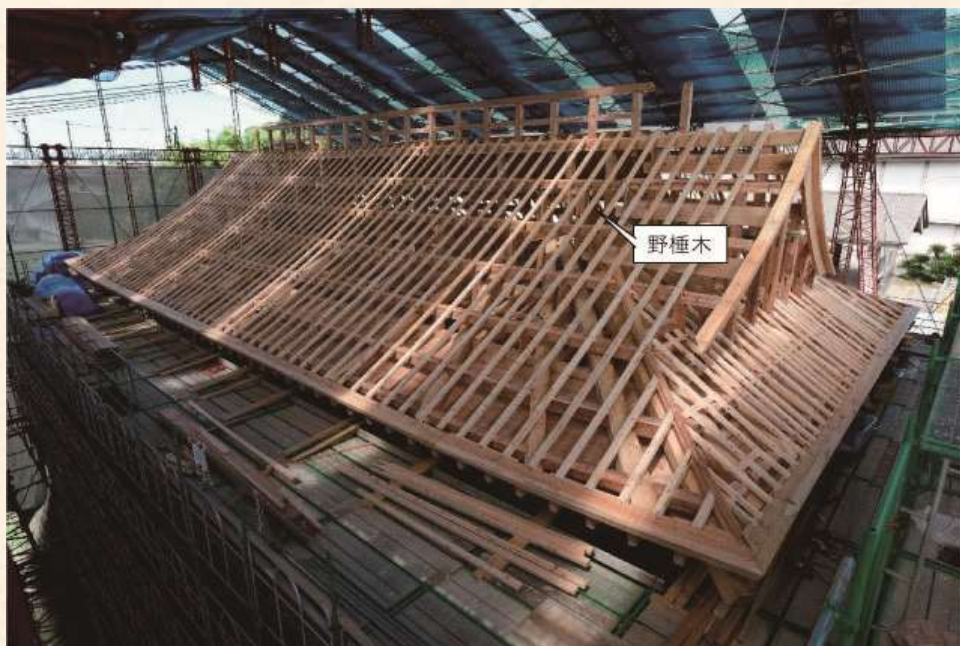


屋根の妻部分には、破風（はふ）を取り付けます。

もう一息で、屋根の完成です。



野極木（のだるき）を取り付け、屋根の緩やかな曲線が出来上がってきました。



野地板（のじいた）を張ると、大屋根が完成します。



大屋根の完成です。



